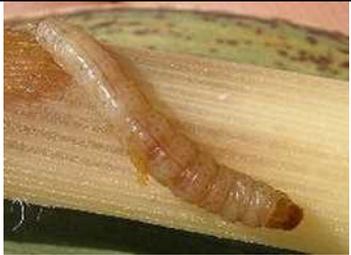
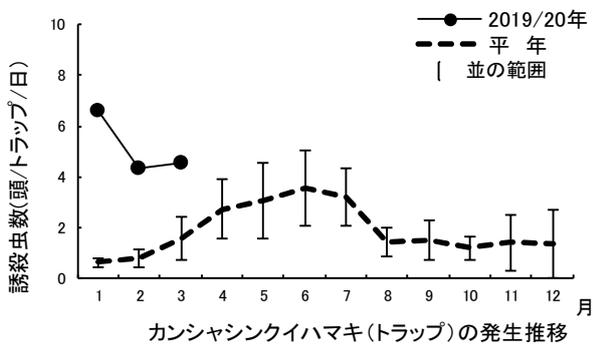
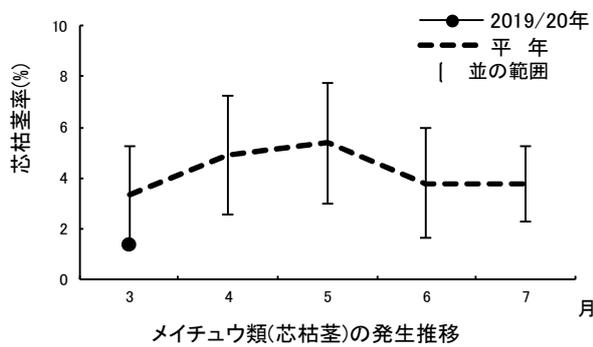


作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ)		
予報	4 月の発生量 (平年比)	並	
	3 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	3 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



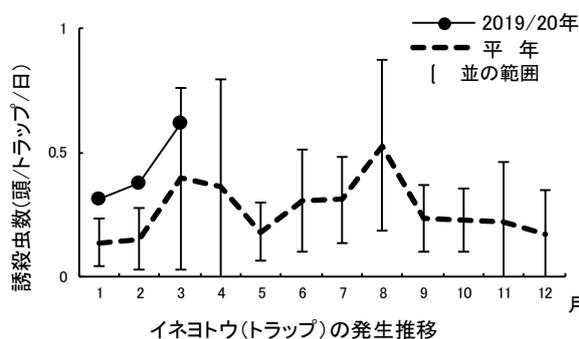
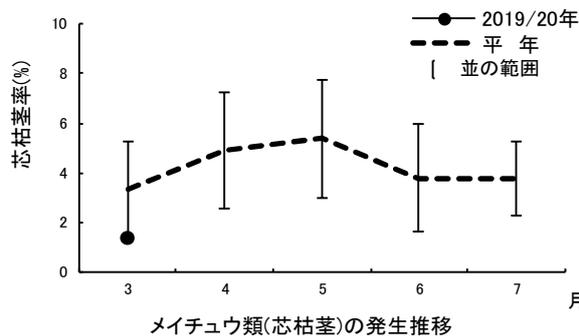
・沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の79% (15/19頭) がカンシャシクイハマキであった。

防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	② メイチュウ類(イネヨトウ)		
予報	4 月の発生量 (平年比)	並	
	3 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	3 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果



・沖縄本島の茎内で発見したメイチュウ類の21%(4/19頭) がイネヨトウであった。

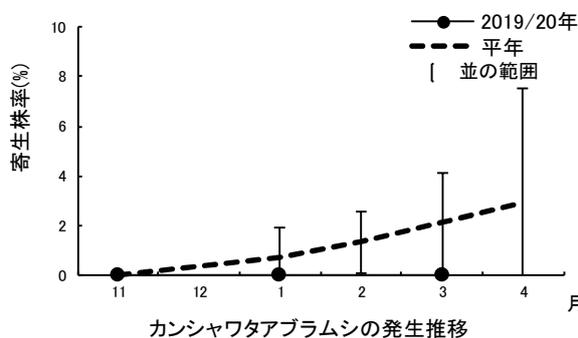
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間に散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

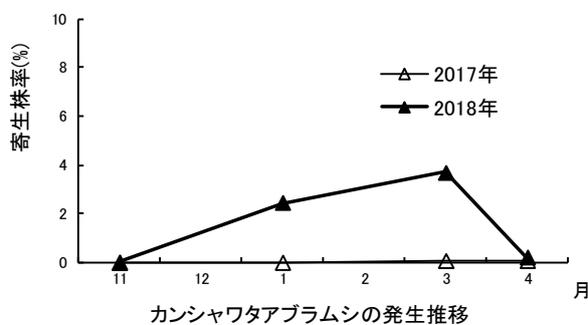
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	③ カンシャワタアブラムシ		
予報	4 月の発生量 (平年比)	並	
	3 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	3 月の発生量 (平年比) その他 (気象要因など)	(発生なし)やや少 平年の発生量の推移 (↗) 今後 1 か月の気温が平年より高い見込み	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



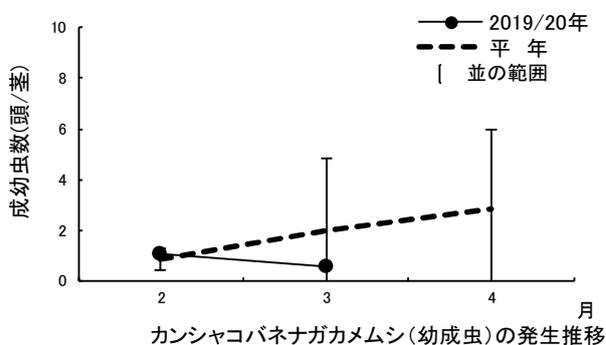
防除のポイント

- ・多発すると吸汁害及びすす病によりさとうきびの生育が遅延するため、早期発見・防除に努める。
- ・本種は秋期に飛来した有翅虫が第一世代となり、数世代にわたり増殖して春期の大発生を引き起こす。葉裏をよく確認し、発生が見られる場合は初期防除を行う。
- ・多発時は有翅虫が絶えず移動分散するため、一斉防除を行うことが望ましい。
- ・捕食性天敵のマエウスジロマダラメイガの密度が高い場合は、捕食による密度低下が期待できる。

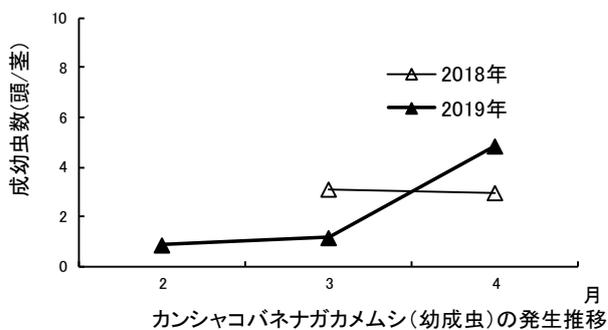
作物	さとうきび	地域	沖縄本島
病害虫名	④ カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー)		
予報	4 月の発生量 (平年比)	並	
	3 月からの増減傾向	↗	
予報の根拠	3 月の発生量 (平年比)	並	
	その他 (気象要因など)	平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今年と平年の推移



過去2年間の推移



防除のポイント

- ・ 概ね4～6月に第一世代、7～8月に第二世代、9～10月に第三世代が発生するため、防除適期である4～5月上旬に茎当たり虫数が20頭を越えているほ場では、薬剤による防除を行う。
- ・ 前年の夏植や初回の株出しが被害を受けやすいため、葉鞘の隙間などをよく観察する。
- ・ 収穫後は直ちに畝間耕起し、発生源となる放置株を抜き取り処分する。